

出土した遺物



とらいせん ほくそう
渡来銭「淳化元宝」（北宋）。
 中世の日本では輸入された貨幣が
 流通していた。本遺跡ではこのよ
 うな渡来銭が30枚出土している。



ないじなべ
内耳鍋。使用する際に、
 鍋を吊るす紐が焼き切
 れないように、紐穴が内
 側にある。



こうえんぶ
縁部に黒いタール状のものが付いたかわらけ
 （土師器皿）。中央の隙間は灯芯の痕。灯明皿
 （油皿）として使用された。



ばち
すり鉢。中央が長年の
 使用ですり減っている。

おおつよこた いせき 令和6年1月20日(土) 山梨県埋蔵文化財センター

大津横田遺跡遺跡見学会資料



近年まで大津町の現在地周辺には遺跡が存在しているかどうかわかって
 いませんでした。しかし、昨年度の試掘調査を実施したところ、新たな遺
 跡が複数見つかりました。今回はその一つである大津横田遺跡の見学会と
 発掘体験会を実施します。

今回調査地点では、リニア中央新幹線の本
 線や、甲府中央スマートインターチェンジ（仮
 称）に伴う甲府中央右左口線1号線アクセス道
 路の建設が予定されています。この工事に先立
 ち、発掘調査を行なっています。

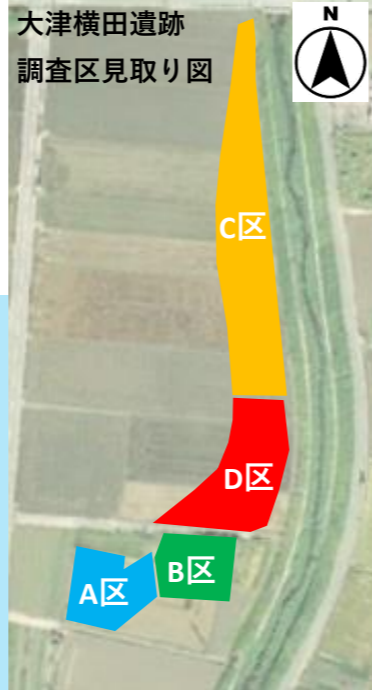
2023年9月からはじまった発掘調査は、
 これまでA区・B区・C区の3つのエリアの調査
 が終了し、現在D区を調査しています。約4,800
 m²の遺跡を5か月かけて調査しました。



↑調査の様子。農具使っ
 て慎重に精査をする。

各エリアの調査成果

本遺跡は、出土している遺物や、周辺の遺跡との関係性から、約600年ほど前（室町時代）の遺跡と考えられます。調査では、主に水田の畔^{あぜ}などの遺構が見つまっていることから水田跡の遺跡と考えられます。



A区 ピットや土坑の検出



← 東端ではピットや土坑など複数の遺構が検出された。こういった性格を持つ遺構なのかは今後要検討。

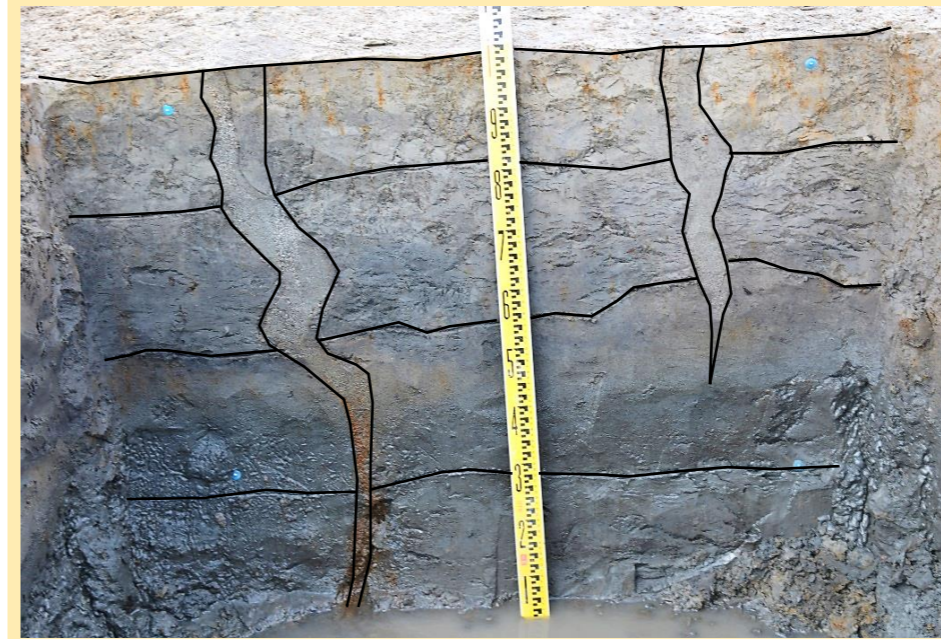
B区 水田跡

→ 複数の水田の畔（あぜ）が検出された様子。東西方向の畔から南北方向の畔が延びているのがわかる。



C区 地震の痕跡

→ 上から見た地割れの様子。幾筋もの線がある。



← 地割れの断面。砂利が噴砂^{ふんさ}となっているえきじょうか^{えきじょうか}液状化現象の様子がよくわかる。なお、C区では地震の痕跡のほかにはわずかな遺構しか検出されなかった。

D区 水田跡

→ 現代の水田の区画と同じ位置に中世の水田の畔（あぜ）がある。500年前から土地の利用の状況や区画の位置に変化がないことがわかる。

